

ハイデガー・フォーラム第 18 回大会

応募要旨 2

(特集：解釈学)

ガダマーの「地平融合」概念におけるヘーゲルの弁証法理論の影響についての考究

本発表において、ガダマーの「地平融合」概念におけるヘーゲルの弁証法理論がいかなる影響を及ぼしているか、その全容の一部を解明することを試みる。この際、アリストテレスとの接続、そしてハイデガーへの影響という観点でガダマーがどのような評価をヘーゲルに対して下していたのかを考究する。

ガダマーは主著『真理と方法』(*Wahrheit und Methode*, 1960、以下 WM)において、その副題にも付している「哲学的解釈学」として掲げられた理解現象の考究を行なった。本書においてガダマーは、「理解 *Verstehen*」＝「解釈 *Interpretation*」という命題を提示する。すなわち、それまで他者として自身に対峙していた対象を理解するという出来事に際して、われわれは常に言語的、かつ段階的に進む解釈を行っているのである。このようなガダマーの理解現象への理解には、「地平融合 *Horizontverschmelzung*」という概念が常に中核的に関わっている。ガダマーはこの概念によってその出来事の進行を表し、理解現象の構造を特徴づけている。(Vgl. WM. 311)「解釈」において二つの循環が働いているということを含意しながら、この概念はガダマーの議論に導入される。この二つの循環のうち、一方は古来の技法的解釈学においてもすでに問題として定式化されていた〈部分と全体の循環〉として表されるが、もう一方は、ハイデガーの『存在と時間』(*Sein und Zeit*, 1927)での議論に根を持っている。これはすなわち、解釈主体の「先入見 *Vorurteil*」が解釈に先行して働いており、それは解釈対象に対する問いという仕方で働いているという〈被投的企投としての循環〉である。

「地平融合」とは、大括みに概略しようとする、以下のように記述できる。理解する解釈主体のもつ地平から、解釈対象に対して問いを投げかけ、理解された解釈対象がその問いに対して答えを示し、それで受け取ることでもって解釈主体の地平が揺らぎ、組みかわる。揺らぎを経た、変質した地平から新たに問いが投げかけられ、それによってまた新たに答えを受け取ることとなり、この応答を繰り返すことによって、解釈対象がその表れによって伝達しようとした「事柄 *Sache*」へと解釈主体が向かっていく。

この記述を見た上で、真っ先に念頭に置かれるのはヘーゲルの弁証法であろう。ガダマーは、地平融合の雛形として明示的に指すことはしないが、ガダマーの思索において

重要な位置を占めるものとして、WM 上でもその後に発表された著作・論文の上でも、ヘーゲルを挙げている。この中でも注目すべきものは、ヘーゲルに関する論文、講演原稿の改稿等をまとめた論文集『ヘーゲルの弁証法』(Hegels Dialektik, 1976/1980) であろう。ガダマーは、ヘーゲルそれ自体の読解に加え、古代ギリシア哲学、ハイデルベルク・ロマン派、そしてハイデガーと重ねてヘーゲルを読解するという試みをおこなっており、上記三つ各々とヘーゲルを対峙させた論文がこの論文集におさめられている。しかし、この論文集での軸はあくまでヘーゲルの弁証法の解釈であり、ガダマー自身の思想との接続は積極的にはなされない。

これを踏まえたうえで、本発表においては以下の手順で持って考察を進める。第一に、WM でのヘーゲルに関する言及を取り出し、ガダマーが自身の解釈学を提示する際にヘーゲルをどのように位置付けているのかを改めて確認する。第二に、『ヘーゲルの弁証法』におさめられた論文にみられるヘーゲル像のうち、第一の過程により確認された、解釈学におけるヘーゲルをここから見出す。この時重視されるのは、古代ギリシア哲学、そのうち特にアリストテレスとの接続、そしてハイデガーへの影響関係である。前者について、古代哲学との関連が重視されるのは、次の根拠に基づいている。まず WM において、ガダマーはアリストテレスを解釈学のモデルとして据えている。(Vgl, WM. 317) また『ヘーゲルの弁証法』はしがきにおいて、この諸論文が公表されたのは古代ギリシア哲学の素養が彼自身を大きく助けたためだとガダマーは告白している。このように、ガダマーは自身の思想、また哲学者解釈において、その下地に常に古代ギリシア哲学を据えている。『ヘーゲルの弁証法』所収の「ヘーゲルと古代弁証法」ではアリストテレス、特にその論理学との接続が重点的に論じられているが、本発表ではこの点を精査する。次に後者について、ハイデガーへのヘーゲルの影響をガダマーがどのように解釈していたかに注目するのは、以下の根拠のためである。つまり前述のように、「地平融合」概念へのハイデガーの影響は看過することのできないものであり、ガダマーが自己意識の上で、ヘーゲルとハイデガーのどの点に一致を、差異を見出しているかを精査することは、われわれの考究に大きく貢献すると考えられるためである。

本発表によって、未だ未解明な部分の多い「地平融合」概念の一部を解きほぐし、ガダマーがこの概念の記述によって伝達しようとした「事柄」へと向かうことを、発表者は企図している。